

# 学校図書館支援センター通信 NO.97 2月号

平成27年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

## 第3回 学校図書館研修会・ネットワーク会議

1月15日（金）平成27年度 文部科学省委託・学校図書館支援センター事業「学校司書の資格・養成の在り方や資質能力の向上等に関する調査研究」の研究協力校である第七中学校の発表および、教育センターからの研究経過報告が行われました。

第七中学校からは「学校図書館における学校司書の活用について」というテーマで、夏季校内研修会や、学校オリジナルワークシートの活用方法について、報告がありました。授業の流れや授業後の生徒の感想、写真などの説明も、大変わかりやすく、すぐにでも参考にできる内容でした。

教育センターからは、学校司書の活用に関する現状と、今後の課題について、説明がありました。

第七中学校・教育センター・中央図書館は、来年度、日本で開催されるIASL（国際学校図書館協会）東京大会の視察会場に選ばれています。学校図書館の効果的な活用および、学校司書との協働を通して、アクティブ・ラーニング型の授業実践を行い、子どもたちに、主体的に社会と関わりながら、未来を生き抜く力を養っていただきたいと思います。



### 市川市立菅野小学校 詩人 谷川 俊太郎 さん 講演会(1/13)

菅野小学校で、詩人 谷川 俊太郎 さんの講演会が開かれ、全校児童や保護者・地域の方々が見守る中、飯山 牧子 先生との対談形式で、和やかに進められました。手作りです飾られた体育館には温かな日差しが降り注ぎ、谷川さんのお人柄を象徴するような穏やかな時間が流れました。

菅野小学校では、この日を迎えるにあたり、谷川さんの詩集をネットワークシステムを活用して市内中から集めて読み、自分たちでも詩を作って、谷川さんの前で発表し、ご講評をいただきました。また、学年ごとに谷川さんの詩を選び、全員で群読も披露しました。「おもしろいね。誰が演出したの？演出料もらったの？」「一人で読むのとは、感じが違っていいね」などと、愛情に溢れたユーモアたっぷりの言葉を子どもたちに掛けてくださいました。子どもたちからもたくさんの質問が寄せられました。「詩を書くときは、自分を空っぽにする」「詩が上手になる食べ物はない」「自分なりに真面目に生きる」「自分が感じたり考えたりしたことを誰かと合わせる必要はない。自分を信じることは大切なことである」と子どもたちの質問に真摯に答えてくださいました。会場中が一つになって谷川さんの詩の世界を肌で感じることもできる、貴重な講演会となりました。



各学年の教室前の廊下に置かれた図書

『学校図書館支援センター通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。  
市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）  
〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4  
TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352  
<http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html>



南行徳中学校では、毎年、夏休みに先生方全員にお願いして、『中学生に読んでほしい本』を選書していただき、A4サイズでポスターを作成し掲示しています。毎回、力作が多く、あまり知られていない名作を購入するよい機会となっています。

年2回ポスターを作成する図書委員のおすすめの本と分けて、展示コーナーに別置しています。展示物はテーマを決めて学年ごとに作成します。

そのほかに、全校集会や校内で毎月開催される地域のお年寄りの会、学期末に各クラスで図書委員が行う『市川の民話の朗読』や『大型絵本の読み聞かせ』など、様々な読書活動が行われています。

中学生の3年間の成長はすばらしく、毎年、感心しています。

市川市立南行徳中学校 学校図書館員 武藤 安津子



### 学校図書活用：市川市立妙典小学校公開研究会・富貴島小学校校内研究会

妙典小学校では、「自分の考えを明確に持ち、主体的に学ぶ子の育成」を研究主題として、国語科、総合的な学習の時間の公開研究会が開かれました。学校内には、あちらこちらに学習用の図書が準備されており、子どもたちが調べ学習の際に、目印のためにつけた付箋が、たくさん貼られていました。



各学年の教室前の廊下に置かれた図書

国語科では、1年生の「ものがたりをよんで、お気に入りの1さつをしようかしよう」や、6年生「伝記を読んで、ライブラリーナビを作る」など、図書と直接的にかかわる学習場面だけでなく、2年生「おもちゃの作り方をせつ明しよう」や3年生「主人公紹介カードを作ろう」など、多くの授業の学習過程の中で図書が有効に活用されていました。総合的な学習の時間では、4年生「江戸川の中までイッテQ」、5年生「スーパー米（マイ）オブラザーズ」、6年生「和の心 オリジナル和菓子を作ろう」など、大きなテーマの中に、子どもたち自身の課題を設定して、様々な資料を活用して調べ、自分たちの言葉でまとめて発信していました。

富貴島小学校では、「豊かな心を求めて 主体的な学びを育む単元を貫く言語活動の探究 ～実生活で生きてはたらく読む能力の育成～」を研究主題として、国語科の校内研究会が行われました。

2年生は「手作りおもちゃ説明書 しかけカードの作り方（光村図書）」、4年生は「主人公が伝えたかった思いを想像して 思いのとびらで紹介しよう ごんぎつね」、5年生は「お薦め！ あったかはあと いのち 特集 海の命（光村図書）」の授業を展開しました。それぞれ、自校の図書や、ネットワークシステムで市内中から集めた図書を活用して、並行読書、先行読書を行いながら、授業が行われました。講師の国立教育政策研究所 西川 さやか 先生からは「書くことをいとわない子どもたちの姿勢が、素晴らしい。先生方が学習モデルを作成し、子どもたちに示すことで、最適な言語活動となっている」というご講評をいただきました。



5年生 国語科



6年生 国語科



2年生 国語科



4年生 国語科

さらに、「9年間という義務教育の中で、子どもに身に付けさせたい力を見極めて、学習計画を立てることも大切である」と、おっしゃっていました。